

フ ロ ン ト ラ イ ン FRONT LINE

— 最前線 —

各現場の最前線で活躍中の社員を紹介する当コーナー。今回は、粘着製品に使用される剥離紙・剥離フィルムの開発に携わる研究員をご紹介します。



研究所 製品研究部
剥離材料研究室
かわむら ななみ
河村 七海

2016年に入社し、研究所に配属。シール・ラベル用粘着製品に使用される剥離紙や光学ディスプレイ関連粘着製品向けの剥離フィルムなどの開発に従事。

Q 現在の仕事について教えてください。

製造時に有機溶剤を使わない無溶剤型剥離紙の開発を主に担当しています。環境配慮が求められる中、無溶剤化は最重要テーマの一つであり、高い要求品質を満たす新処方確立に注力しています。また、車載用タッチパネルなどに使用される特殊粘着製品向けの剥離フィルムの開発も行っています。



無溶剤型剥離紙

当社では環境負荷の低減に向けて、無溶剤型剥離紙の開発・製造・販売を強化しています。現在、生産量ベースで約65%の剥離紙を無溶剤化しており、2030年までに無溶剤化率100%を目指しています。

Q 育児中とのことですが、仕事と家庭の両立は大変ではないですか。

現在は時短勤務制度を利用しており、有給休暇も取りやすく、私のような共働き家庭でも働きやすい環境だと思います。上長には業務の進捗を気にかけていただき、保育園からの呼び出しがあれば同僚にサポートしてもらうなど、周囲の協力に感謝しています。制度や職場の理解のおかげで好きな研究職を続けることができ、とてもありがたいです。今後のさらなる制度の充実にも期待しています。

Q 新たに取り組みたいことや将来の目標を教えてください。



時短勤務では限られた時間の中で、効率良く成果を出していかなければなりません。例えば、ある物性を発現する配合を求めるためにさまざまな材料や分量の組み合わせを試すのではなく、統計学を活用することで、より少ない実験から最適解を導き出す手法を自分なりに習得したいと考えています。また剥離材料の追究に加え、粘着剤の知識も身につけて粘着製品をトータルに設計できる人材を目指していきたいですね。

2023年度 新聞広告シリーズ

リンテック流

十二人一首



日本古来の百人一首をモチーフに、持続可能な社会の実現に向けて当社が生み出している製品などを紹介する新聞広告シリーズです。和歌風のキャッチコピーをあしらった絵札のビジュアルで1年間にわたって月替わりで展開します。

【主な掲載紙】

日本経済新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞

この一枚かな
行く方へに続く
創り出し
渡る我が
今の世を

持続可能な社会の実現に向けて
一枚の素材で貢献してゆく
リンテック株式会社

卯月

4月掲載広告

リンテックは持続可能な社会の実現に向けて、粘着製品や特殊紙などのさまざまなシート状の素材を製造・販売しています。現代の私たちが創り出す1枚1枚がより良い未来につながっていくよう、環境に配慮した製品や安心・安全な暮らしに貢献する製品の開発に努めています。

皐月

5月掲載広告

住宅や店舗などの窓に貼るだけで防犯対策として機能するリンテックの窓ガラス用フィルム。ガラス破りに5分以上掛かると空き巣の約7割が侵入を諦めると言われ、優れた耐貫通性と耐衝撃性でガラス開口部からの侵入を難しくするこの1枚が、暮らしに安心を提供します。

わが窓の
守りの堅き
この一枚
ながながし夜も
心安く寝む

窓ガラスに貼ることで侵入を防ぐ
防犯対策に効果的なフィルム
リンテック株式会社

水無月

6月掲載広告

環境配慮製品の提案に注力しているリンテックでは、植物由来原料を使用しながら従来の機能性を損なわないバイオマスラベル素材のアイテムを拡充。強粘着タイプや容器からきれいに剝がせる再剝離タイプなどをラインアップしており、エコな1枚がCO₂排出量の削減に貢献します。

草木より
新たな素材
生まれるば
むべこの一枚を
エコといふらむ

植物由来の原料を使用した
環境に優しいラベル素材
リンテック株式会社

製品の詳細は右記の
ウェブサイトにて御覧いただけます。

DREAM FACTORY
www.lintec.co.jp/dream/ad/



批評が難しい日本

安東 弘樹

私はフリーランスでアナウンサーという仕事をしています。また、日本で新しく販売された自動車の中から「今年の1台」を選ぶ日本カー・オブ・ザ・イヤー（以下COTY）の選考委員を拝命しております。その立場で、車のメーカーや輸入会社がジャーナリストを様々な場所に集めて新しく販売する車を数台から十数台用意し、順番に試乗させる、という「試乗会」に参加します。それを元にジャーナリストや選考委員は記事を書き、COTYに相応しい車は、どれかを判断するのです。また試乗会に参加出来なかった場合や、更に検証

したい場合はメーカーの広報車を長時間、借りて試乗する場合も有ります。

最近は動画投稿サイトに動画を上げるジャーナリストの方が増え、実際に多くの視聴者が目にしている、それは良い事だと思っていますが、個人的に気になるのが、かつての様な、愛のある叱咤が減っているという事です。確かに最近の車で「酷い」ものなど存在はしないのですが、その批評の内容や構成（美点や要改善点の割合）が全ての車に対して、あまり変わらないのです。

まるで不文律が存在するかのように8割～9割が高評価で残りの1割～2割で改善を求める、という具合です。諸外国のジャーナリストの記事や動画を観てみると、時に



安東 弘樹 (あんどう ひろき)

1967年神奈川県生まれ。フリーアナウンサー。1991年にTBSテレビに入社後、報道やバラエティなど、さまざまなテレビ・ラジオ番組を担当。自動車運転免許を取得した19歳から現在までに、45台以上のクルマを乗り継ぐ経験と知識を生かし、活躍の場を広げている。現在はTBSラジオ「UP GARAGE presents GARAGE HERO's〜愛車のこだわり〜」、TOKYO MX「バラいろダンディ」、テレビ東京「ミライの歩き方」、bayfm78「MOTIVE!!」など多くのテレビ、ラジオ番組で活躍。2017年より「日本カー・オブ・ザ・イヤー(COTY)」選考委員。



は感情的になり、「この部分は全く理解出来ない」「メーカーの妥協を感じる」などの表現が見受けられ、時には“disgusting”(不快である)という言葉を使う場合もあります。日本のジャーナリストが忖度している訳では無く、「文化の違い」という部分もあるとは思いますが、メーカーの広報が近くにいても、諸外国のジャーナリストはお構いなしです。また電気自動車の航続距離を測る、といった数字で見せられる検証などは、実際に満充電からバッテリーが完全に空になって車が止まってしまうまで走らせ、その距離を測ります。メーカーとしては車に負担が掛かるため、そんな検証はさせたくないでしょうが、特に欧米ではユーザーの為の検証を邪魔する事は出来ない、という「文化」を感じます。日本では何故かジャーナリストが配慮して、メーカーが嫌がることはしません。むしろ一般のユーザーが自らの所有車を使ってメーカーに遠慮せずに欧米ジャーナリストの様な検証をしている状況です。皮肉な事にCOTY選考委員の私が一般の方の動画を参考にする事がある位です。

私は選考委員ではありますがジャーナリストではありません。しかし同様の役割を果たすべきだと思っていますので、この状況を打破すべく、少しずつ、行動で示しているつもりではあります。

そしてこれはエンターテインメントの世界では更に顕著で、現在放送映像メディアで、映画や舞台、音楽ライブなどの批評を目にする事は希有になりました。数十年前までは、確かに辛辣な批評を目にする事もありましたが、現在は、この世界でも一般の動画投稿者が、その役割を果たしています。そもそもインターネットの時代に「批評家」が必要かどうか、という論調も理解できますが、一般の方より知識も経験も多いはずの批評家の言葉が「必要ない」とは思えません。だからこそ、配慮や忖度を完全に廃した批評が必要なのではないでしょうか。自戒も込めてしたためました。

.....
物事を評価するうえでは配慮や忖度のない批評が必要だという安東さん。リンクも株主・投資家の皆様からのさまざまな声を受け、それにお応えすることで、企業価値の向上と持続的成長を目指していきます。

連結財務諸表

連結貸借対照表(要約)

(単位：百万円)	当連結 会計年度	前連結 会計年度
流動資産	171,936	182,224
固定資産	132,945	120,640
① 資産合計	304,881	302,865
流動負債	59,823	72,382
固定負債	17,906	20,724
② 負債合計	77,730	93,107
③ 純資産合計	227,150	209,758
負債純資産合計	304,881	302,865

連結損益計算書及び連結包括利益計算書(要約)

(単位：百万円)	当連結 会計年度	前連結 会計年度
④ 売上高	284,603	256,836
売上総利益	63,174	65,137
販売費及び一般管理費	49,378	43,553
⑤ 営業利益	13,796	21,584
経常利益	15,602	22,698
税金等調整前当期純利益	15,862	23,230
⑥ 親会社株主に帰属する当期純利益	11,512	16,641
包括利益	27,307	24,515

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位：百万円)	当連結 会計年度	前連結 会計年度
営業活動による キャッシュ・フロー	5,936	24,642
投資活動による キャッシュ・フロー	△12,138	△19,644
財務活動による キャッシュ・フロー	△12,775	△14,455
現金及び現金同等物に 係る換算差額	2,231	2,425
現金及び現金同等物の 期末残高	33,857	50,603

① 設備投資の増加などによる「現金及び預金」の減少がありましたが、米国での事業買収や調達コストの上昇による「棚卸資産」の増加、成長分野への積極投資による「有形固定資産」の増加などにより、総資産は20億16百万円増加しました。

② 「支払手形及び買掛金」の減少などにより、負債は153億76百万円減少しました。

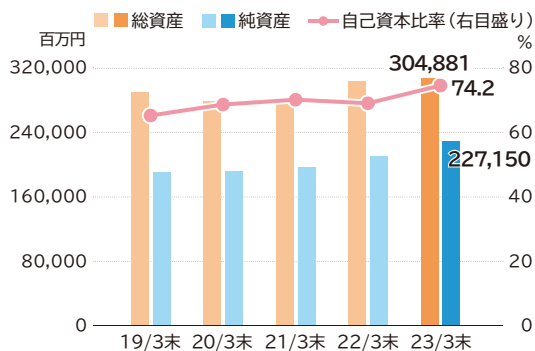
③ 自己株式の取得による減少がありましたが、円安の進行による「為替換算調整勘定」の増加などにより、純資産は173億92百万円増加しました。

④ 米国での事業買収の効果で印刷・情報材事業部門が大幅に増加したことなどにより、売上高は277億66百万円増加しました。

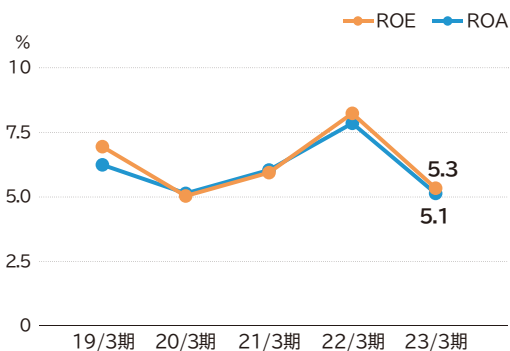
⑤ 円安による増益効果はありましたが、原燃料価格上昇の影響を大きく受けたことなどにより、営業利益は77億87百万円減少しました。

⑥ 円安の進行により為替差益は増加しましたが、営業利益が減少したことなどにより、親会社株主に帰属する当期純利益は51億28百万円減少しました。

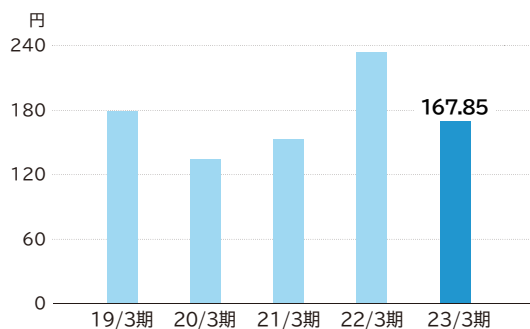
総資産・純資産・自己資本比率



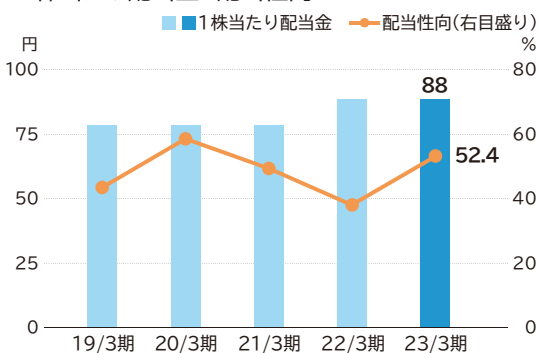
ROE(自己資本当期純利益率)・ROA(総資産経常利益率)



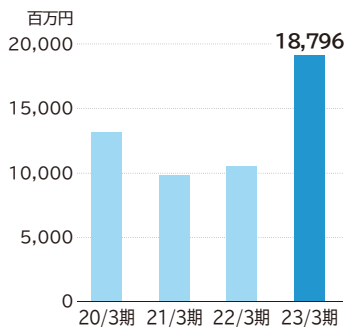
1株当たり当期純利益



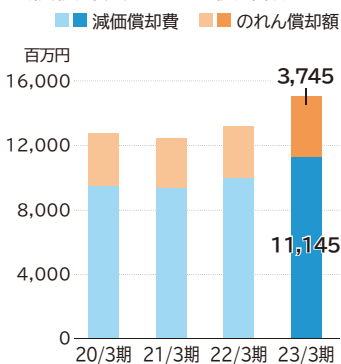
1株当たり配当金・配当性向



設備投資額



減価償却費・のれん償却額



研究開発費

